

セグメント紹介・戦略

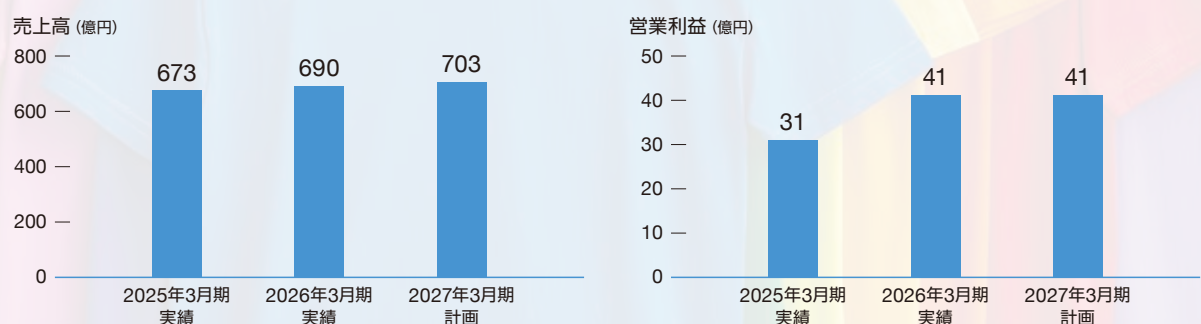
Color & Functional Products

—— 顔料および顔料の2次加工製品 ——

事業説明

当セグメントでは、顔料・繊維用着色剤^{※1}、プラスチック用着色剤、樹脂コンパウンド^{※2}、顔料分散体、機能性材料など、顔料および顔料の2次加工製品を中心に製造・販売を行っています。

カラー&ファンクショナル プロダクトの実績



カラー&ファンクショナル プロダクトにおけるSWOT分析

プラス要因

マイナス要因

内部環境

S
強み

- 顔料の合成、表面处理、配合、分散加工において蓄積された高度な知見と技術
- 多彩な生産設備と確実な生産現場力
- 高度で安定した品質の提供
- 課題対応力、提案力
- 生産拠点のグローバルネットワーク

W
弱み

- 高シェアによる国内市場での伸び悩み
- 多品種少量生産による非効率性
- 高稼働率による設備更新の遅れ
- 価格転嫁までのタイムラグ

外部環境

O
機会

- 自動車の軽量化需要の高まり
- 自動車の電動化、CASEの進行による新規部品、電気系統部品の需要拡大
- 再生可能エネルギー産業の拡大
- 高付加価値(機能・品質・意匠)志向の拡大
- 海外での高品質要求の高まり、高成長国における需要拡大
- 通信速度の高速化
- 化粧品のマイクロプラスチック規制
- デジタル印刷方式の増加
- ディスプレイサイズの大型化

T
脅威

- 脱プラスチック
- リサイクルに向けた無着色化
- CO₂排出規制
- 原材料価格、物流費の高騰
- 不測の事態(地政学的リスク、事業撤退、銘柄統合、廃番、気候変動、設備事故など)による原材料の調達不安
- 委託元の内製化
- 化学物質の環境規制の強化

※1 着色剤：顔料は水や油に溶けない、または溶けにくいいため、分散加工するには顔料の特徴を生かした分散技術が必要です。着色剤はこの分散技術から生まれた製品で、分散体、加工顔料、マスターバッチと同義です。

※2 樹脂コンパウンド：プラスチックに顔料や強化剤などの添加剤を練り込んだ成形材料です。

顔料

塗料、印刷インキをはじめ情報表示・記録用など、幅広い用途で用いられる他、放熱や赤外線反射などの機能性付与にも使用される無機・有機顔料^{※3}

主な製品

- 汎用顔料
- カラーフィルタ用顔料
- インクジェット用顔料
- トナー用顔料
- 熱伝導性無機パウダー

主な利用用途



液晶パネル用カラーフィルタ



インクジェットプリンター用インキ

着色剤・樹脂コンパウンド

情報表示・記録材用着色剤、合成繊維用原液着色剤^{※4}、顔料捺染剤^{※5}、製紙用着色剤を含め、塩化ビニル樹脂、汎用樹脂、エンジニアリングプラスチックなど多様な樹脂に用いられる着色剤

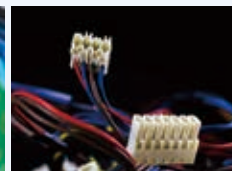
主な製品

- 熱可塑性樹脂用着色剤・機能材マスターバッチ
 - ▶ 合成繊維用原液着色剤
 - ▶ 顔料捺染剤
 - ▶ 製紙用着色剤
 - ▶ 塩化ビニル樹脂用着色剤
 - ▶ フッ素樹脂用着色剤
 - ▶ オレフィン樹脂用着色剤
- 熱硬化性樹脂用着色剤
- 機能材コンパウンド

主な利用用途



アパレル向け繊維



ファイバーハーネス

2026年3月期の振り返り

輸送機器業界向けは、自動車メーカーの減産影響が解消し、HEVを中心とした需要の高まりを受けて国内外で好調でした。タイでは、高付加価値品の能力増強があり、販売増に貢献しました。

情報・電子業界向けは、カラーフィルタ用顔料がパネル業界の堅調な動きに支えられ、新規案件の獲得が寄与して伸長

しました。インクジェット用顔料・分散液も、テキスタイル向けの拡大と既存の商業印刷向けが回復して好調でした。また、半導体部品向けにCNT(カーボンナノチューブ)分散体の新規採用が進みました。

産業資材業界向け、建材・設備向けの着色剤は堅調に推移しました。

事業戦略

カラーフィルタ用およびインクジェット用の顔料・着色剤事業は、独自の優れた技術を活かしてさらなる拡大を見込んでおり、現在は生産設備の増強を進めています。顔料事業では優れた表面处理・粒子制御技術を、着色剤事業では自社合成の分散剤を活用した高い分散技術を持っています。

コンパウンド・着色剤事業では、自動車のCASEに対応して、アジア圏のGDP高伸長国を中心に拡販および能力増強

を進めています。また海外を中心に通信ケーブル用着色剤の拡販を図ります。

機能性マテリアルでは、半導体の関連部材としてCNT分散体、熱マネジメント部材などの付加価値の高い製品を安定的に成長する事業に育成していきます。汎用顔料、汎用着色剤については、需要に合わせた銘柄統合、不採算品の値上げなど収益力強化に取り組んでいます。

重点施策

- 機能性マテリアル拡販のための設備投資
- 情報・電子業界向け顔料の設備増設

- 現地生産能力増強も視野に入れたアジア地域での拡販
- 銘柄統合や最新設備への更新による生産合理化

※3 無機・有機顔料：色の素である顔料には、金属などの無機物からなる無機顔料と、有機物からなる有機顔料があります。

※4 原液着色剤：紡糸する前の樹脂に色を付ける着色剤です。

※5 捺染剤：布にプリントする際に使用する材料です。

セグメント紹介・戦略

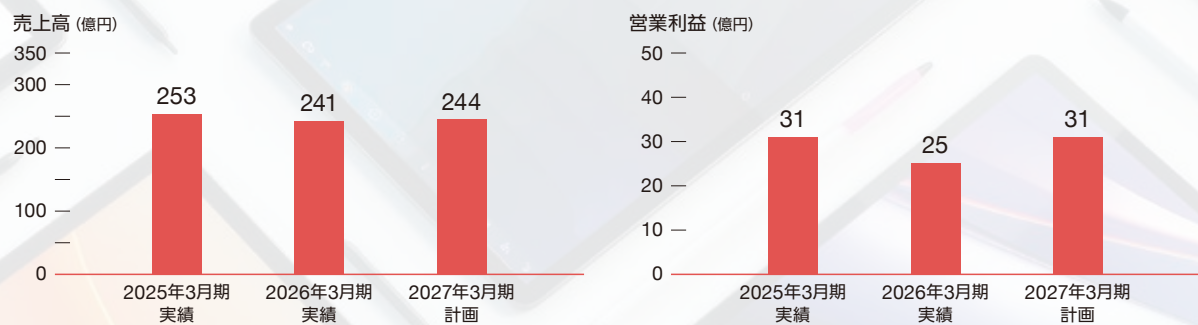
Polymer & Coating Materials

— 合成樹脂および特殊コーティング剤 —

事業説明

当セグメントでは、ウレタン樹脂、天然物由来高分子、紫外線・電子線硬化型コーティング剤^{※1}など、合成樹脂および特殊コーティング剤を中心に製造・販売を行っています。

ポリマー&コーティング マテリアルの実績



ポリマー&コーティング マテリアルにおけるSWOT分析

プラス要因

マイナス要因

内部環境

S
強み

- 蓄積された樹脂設計・開発・評価技術による課題解決力、提案力
- 付加価値（機能性、意匠性）を付与する配合技術、分散加工技術
- 多彩な樹脂製品群（溶液型、成形用、微粒子、接着剤、表面処理剤など）
- 水性・無溶剤・バイオマス・CO₂由来のサステナビリティ貢献製品の品揃え

W
弱み

- 生産設備の高稼働
- 試験研究設備、生産設備の不足

外部環境

O
機会

- 自動車の電動化、CASEの進行
- サステナビリティ貢献製品の要求拡大
- 高機能・高品質化志向の拡大
- プラスチックのリサイクル化の進行によるモノマテリアル化志向
- 通信速度の高速化、電子機器の高性能化
- 意匠性の要求拡大
- 半導体の需要増加
- 塗装工程の合理化、サステナビリティ化
- 粘接着剤需要の拡大

T
脅威

- 脱プラスチック、リサイクルプラスチックの進行
- CO₂排出規制
- 原材料価格、物流費の高騰
- 原材料の調達不安（地政学的リスク、事業撤退、銘柄統合、廃番、気候変動、設備事故など）
- 化学物質への環境規制の強化
- 他材料への転換リスク

ウレタン樹脂

合成皮革や成型品に使用されるウレタン樹脂および着色剤、機能性を付与する特殊コーティング剤や接着剤、耐熱樹脂の代表であるイミド系樹脂

主な製品

- 合成皮革・人工皮革向けウレタン樹脂・表面処理剤・接着剤・着色剤
- 軟包装材・産業資材用接着剤
- 感熱記録用コーティング剤、機能性コーティング剤
- 塗料用添加剤
- 各種成形（射出・押出・カレンダー他）用材料

主な利用用途



自動車内装材

コーティング剤

情報・電子関連分野、自動車分野、内装建材分野などで用いられる紫外線・電子線硬化型コーティング剤および意匠・機能性コーティング剤

主な製品

- 紫外線・電子線硬化型コーティング剤

主な利用用途



情報電子機器

2026年3月期の振り返り

ウレタン樹脂は、輸送機器業界向けで中国向けが好調でしたが、採用車種の販売不振により、全体では低調でした。アパレル業界向けは、中国向けで溶剤規制の影響を受けましたが、国内向けを中心に堅調に推移しました。耐熱性高機能樹脂は、高機能化が進むスマートフォン向けで好調に推移しました。コーティング剤は、液晶パネル向け、半導体向けが通期で堅調に推移しました。

樹脂は、高機能化が進むスマートフォン向けで好調に推移しました。コーティング剤は、液晶パネル向け、半導体向けが通期で堅調に推移しました。

事業戦略

ウレタン樹脂は、幅広い品揃えを生かし、輸送機器、アパレル業界向けを中心に国内外で拡販を進めています。また、地球環境への意識の高まりを背景に、水性、無溶剤、バイオマスなどのサステナビリティ貢献製品の展開、シートメーカーのグローバルな展開に対応した供給の推進、高機能化が進む電子

機器などに使用される耐熱性高機能樹脂の開発および販売に注力します。コーティング剤は、蓄積された配合技術と分散加工技術を基に、オリジナル製品、カスタマイズ製品の開発を得意としており、UV粘着剤も含めニーズに合わせた製品を提案・提供していきます。

重点施策

- 北米における新規顧客開拓
- 海外法人（台湾／中国／米国）との連携強化
- 生産拠点再構築と増能力化（国内／海外）

- 加飾フィルムの開発、販売に注力
- 新規生産棟（坂東プロセスラボ棟）の建設

※1 紫外線・電子線硬化型コーティング剤：紫外線や電子線のエネルギーで化学反応を起こし、瞬時に液体から固体に変化するコーティング剤です。

セグメント紹介・戦略

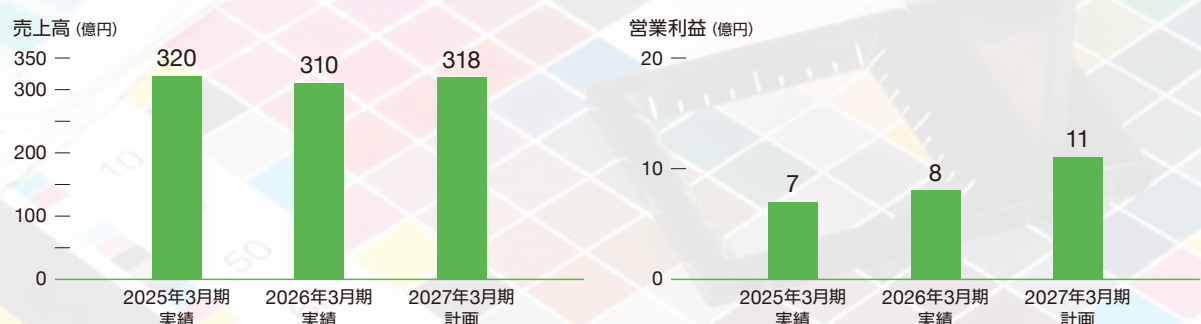
Graphic & Printing Materials

— パッケージ用およびラベル用インキ —

事業説明

当セグメントでは、各種用途に対応した幅広い種類のグラビアインキ・フレキシインキ※1など、パッケージ用およびラベル用インキを中心に開発、製造および販売を行っています。

グラフィック&プリンティング マテリアルの実績



グラフィック&プリンティング マテリアルにおけるSWOT分析

プラス要因

マイナス要因

内部環境

S
強み

- 幅広い基材に対応する品揃え
- 多品種で、小口から大ロット品まで対応可能な生産ライン
- 水性化やバイオマス原料化などのサステナビリティ貢献製品開発力
- 産業構造の変化に伴う新規需要への対応力
- 高度で安定した品質の提供
- 最新の評価機器、評価技術

W
弱み

- 多品種少量生産による非効率性
- 価格転嫁までのタイムラグ

外部環境

O
機会

- サステナビリティ貢献製品の要求拡大
- プラスチックのリサイクル化の進行によるモノマテリアル化志向
- プラスチックから紙への基材代替の流れ
- 商品パッケージの高意匠性への関心の高まり

T
脅威

- 脱プラスチック、フードロス対応に伴う市場縮小
- CO₂排出規制
- 原材料価格、物流費の高騰
- 原材料の調達不安(地政学的リスク、事業撤退、銘柄統合、廃番、気候変動、設備事故など)
- 食品トレイなどの無地化
- ペーパーレス志向による印刷需要の減少
- 化学物質への環境規制の強化

印刷インキ

さまざまな基材への印刷が可能なグラビア印刷用インキ、コーティング剤、水性フレキシ印刷用インキ

主な製品

- グラビアインキ
- フレキシインキ
- コーティング剤
- 接着剤

主な利用用途



飲料ボトルラベル

食品包装



日用品紙包装



環境配慮型パッケージ

2026年3月期の振り返り

包装業界向けのグラビアインキは、国内向けは物価高による買い控えがあったものの、ラベル向けや水性フレキシインキの出荷増があり前期並みに推移しました。

また、スマートフォンなど情報機器向けのインキ・コーティング剤は、中国向けの特需が一服し前期割れとなりました。

建材・設備業界向けは、堅調に推移しました。海外は、インドネシアの子会社で競合メーカーとの競争が厳しく、通期では減収となりましたが、技術フォローにより商権は奪還し年後半は回復しました。

事業戦略

原材料、物流費、労務費などのコストアップ分の価格転嫁ならびに不採算品の価格修正は、お客様のご理解を得ながら進め、シェアの維持、合理化を加速し、既存事業の体質強化を図ります。

技術優位性の高い製品の拡販(ラベル用水性フレキシ

ンキ)を行うとともに、収益性アップを狙い、食品包装だけでなく、情報・電子、産業資材分野の新規開拓を進めます。

高い成長が見込まれるインドネシア市場で能力増強投資や技術力強化などさらなる対応策を検討します。

重点施策

- 技術優位性の高い製品への注力
(ラベル・水性フレキシインキ)
- 新規市場の創出
 - ▶ 展示会などを利用した開発品の販路開拓
 - ▶ 技術機構・他事業部との協業による新分野への参入
 - ▶ 産業資材分野への注力、対象分野での拡販を推進

- 合理化施策の実行
- 海外子会社の能力増強の検討

※1 グラビアインキ・フレキシインキ：さまざまな部材への印刷が可能なグラビア印刷用インキ、コーティング剤、水性フレキシ印刷用インキです。